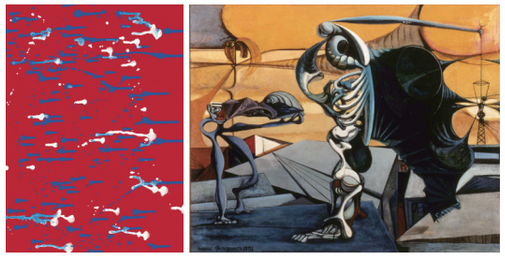
CONTENTS

No.272　2022年2月号　草月指導者連盟機関誌

2 だから、おしゃべりはやめられない　第80回
4 家元継承20周年記念 勅使河原茜展 ひらく
6 第102回草月いけばな展 マイストーリー ―私の花語り―
10 支部活動報告 長崎県支部展／徳島県支部展
12 勅使河原茜の花「ガラスと早春の花」
16 没後20年企画 勅使河原宏の言葉と花 最終回
18 スペシャルインタビュー 勅使河原萱 50の質問
23 レビュー 勅使河原茜展―いけばな草月流 家元継承20周年記念 大樋美術館 家元作品展示・石川県支部主催講習会／家元からの新年のご挨拶 いけばなインターナショナルフェア2021／Arita × Sogetsu／暮の御挨拶
25 インフォメーション 本部教室／草月WEST
30 カレンダー

Newsletter

01 Keep Right on Talking! No.80
02 "RELEASE" Akane Teshigahara Solo Exhibition for 20th Anniversary
03 The 102nd Sogetsu Annual Exhibition to Celebrate *Iemoto*'s 20th Anniversary "Flowers and Me"
04 Message from Kiri Teshigahara
05 Special Interview: 50 Questions for Ken Teshigahara
07 One Two Step ㉙
08 Important Notice for Overseas Members
09 Information



表紙・画＝勅使河原茜
表紙・画＝勅使河原宏作品「サイレン島」（1951年）
表紙デザイン＝N.G.inc.
印刷＝東洋紙業株式会社
制作協力＝丸紅フォレストリンクス株式会社

発行日＝2022年2月1日　編集・制作＝草月文化事業株式会社 出版部 編集制作室　発行＝一般財団法人草月会
〒107-8505 東京都港区赤坂7-2-21　TEL＝03-3408-1154　FAX＝03-3405-4947　E-mail＝members@sogetsu.or.jp

初夏の草月いけばな展 開催決定！

出品者募集

さわやかな初夏の草月いけばな展は、小品を中心とした展覧会を開催します。
気持ちも新たに、皆さまのご出品を心よりお待ちしております。
詳細は、応募要項及びホームページにて発表します。お楽しみに！

【会期】
2022年6月8日（水）～6月26日（日）
1期：6月8日（水）・9日（木）
2期：6月11日（土）・12日（日）
3期：6月15日（水）・16日（木）
4期：6月18日（土）・19日（日）
5期：6月22日（水）・23日（木）
6期：6月25日（土）・26日（日）
※2日間・6期制、作品は会期ごとに入替。
※いけこみは各会期前日を予定。

【会場】
草月会館2階談話室（予定）

監修：勅使河原茜（家元）
主催：一般財団法人草月会
企画運営：草月会事業部事業課

【出品説明会】
新型コロナ感染拡大防止の観点から、開催いたしません。ご希望の方には「応募要項」をお送りするほか、ホームページでも詳細をご確認いただけます。

【応募要項】
ご希望の方に、郵送・FAX・メールのいずれかの方法にてお送りします。［会員番号・お名前・ご希望の送付方法］を事業課までお知らせください。
※送付予定日以降は、草月会館事業課でも配布しております。メンバーズサイトにも掲載します。

【応募方法】
応募要項をご請求の上、要項に沿ってお申込みください（2月7日以降順次郵送予定）。花席をはじめとした詳細は、応募要項及びメンバーズサイトにてご案内します。ご興味のある方は、ぜひ資料をご請求ください。

申込受付開始
2月16日（水）10:00～ ※一斉募集開始

※上記日時以前にお申込みいただきましても受け付けいたしかねます。
※お申込みは先着順にて受け付けます。なお、お申込み同着多数の場合は、抽選とさせていただきます。
※郵送の場合は、到着日を同着扱いとし、FAXやメールでのお申込みは着信した順とさせていただきます。
※ご希望の会期・花席が満席の場合、他会期・他花席でのご出品をご案内、またはお断りすることもございますので、予めご了承ください。

受付締切：2月28日（月）

※本年は新宿髙島屋での展覧会は予定されておりません。
※会期や内容は変わることがあります。また、天災及びその他不可抗力による事由により、草月いけばな展の開催を延期・中止する場合がございますので、予めご了承ください。
※新型コロナウイルス感染症予防の観点からご出品は日本国内在住の会員に限らせていただきます。

お問合わせ［事業課］　TEL：03-3408-1156／FAX：03-3405-4947／E-mail：kikaku@sogetsu.or.jp

2022年を迎えて1ヶ月余りが過ぎました。今年こそは平穏な1年になりますようにと願うばかりです。昨年は様々な行動制限がかかる中ではありましたが、できることを懸命に行ってきました。中でもひときわ感慨深かったのが、11月に草月会館別館アトリエで開催した家元継承20周年記念「勅使河原茜展 ひらく」です。

今回の個展でもっとも迷ったのが作品点数でした。↘

だから、おしゃべりはやめられない 80

勅使河原 茜

異空間に包まれながら

熟考を重ね、点数をぐっとおさえた構成にしたのですが、「もっと点数を増やしたほうがいいのだろうか」と、それこそ夢でうなされるほど悩んだものです。しかし、個展だからこそ自分の好きなことをやるべきなのだと、途中から頭を切り替え、制作に臨みました。

かなり大がかりな作品もあったため、いつも以上に苦労もありましたが、その中で大きな支えとなったのは草月アトリエの存在です。ギリギリの気力を振り絞るように制作するスタッフの姿を見るにつけ、「もうこれ以上無理はさせられない……」と、私が少しでも怯んだり遠慮したりすると、そんな気持ちを見透かしたかのように「無理って思わないでください！ まずはやってみましょう！」と逆に発破をかけられました。そのおかげもあり、一切妥協することなく、力強い作品を完成させることができました。とはいえ、「これで本当に皆さんに喜んでいただけるのだろうか」という不安は最後までありましたが、初日にいらしてくださった皆さんの様子を見た瞬間に成功を確信しました。どのお顔もまるで不思議の国に迷いこんでしまったかのような表情をされていたのですが、これこそまさに私の目指していたものだったのです。異空間を彷彿とさせるこの雰囲気は、今回のアトリエという場所でしか実現し得ないもの。他の展示会場では決して出せない特別な空気感を、ぜひとも皆さんに味わっていただきたかったのです。

中央にしつらえた巨大な球体のインスタレーションには、倉庫に眠っていた祖父・蒼風の作品を組み入れました。見つけたときから絶対に使おうと決めていたのですが、その存在感はやはり別格です。作品の心臓となり、そこから蒼風の息遣いまでもが聞こえてくるようでした。今回の個展は、第102回草月いけばな展とも一部会期が重なっていましたが、ちょうど新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、オミクロン株が出てくる前の貴重なタイミングでした。さらに個展の最中は連日晴天にも恵まれ、もしかするとこの場所にひときわ思い入れがあったであろう蒼風がそうしてくれたのではないか、アトリエの空気に包まれながら、ついそんなことを考えてしまいました。

どのイベントも、終わりを迎える時には一抹の寂しさを感じるものですが、これほど愛しく、これほどその場から離れがたいと思ったのは初めてかもしれません。実は会期を延長できないものかと画策したのですが、さすがに急には難しく、代わりに途中から開場時間を長くし、夜もご覧いただけるようにしました。通常の展示会場では昼夜でさほど差は出ないものですが、アトリエは外光の影響も大きいため、夜になると想像以上に表情が変わります。まるで作品が闇夜に浮かび上がるかのように美しく輝き、昼と夜で2回足を運んでくださった方もいたと聞いています。

今回の大作2作品では、花器を主にしなかったのですが、そうすることで植物がそのまま地中から生まれ出たように見えるため、いつも以上に「花の生命力を感じた」「元気をもらった」というお声をたくさんいただきました。名目は家元継承20周年記念の個展ではありましたが、コロナ禍で沈んだ気持ちを少しでも引き上げることができたのなら、それは私にとっても大きな喜びです。まだまだ先行き不透明な部分もありますが、今年もこんな機会を少しでも増やすことができたらと思っています。

「勅使河原茜展 ひらく」の会場にて、メイン作品と。
赤く着色された部分は蒼風作品の一部。
祖父からのパワーも大きな後押しになりました。
ご来場いただいた皆さまに感謝申し上げます。

アトリエ内のメイン作品。中央には球体作品を、呼応する大作 2 点は元からある棚を利用してダイナミックにいけられた。
ひとつは色鮮やかなピラカンサやいいぎりなど、もうひとつは色を抑えて桐や苔梅などが用いられた。

家元継承20周年記念

勅使河原茜展 ひらく

2021年11月12日～17日

Photo ／ Naoki Fujioka

創造の宿る場所で

家元継承20周年を記念した展覧会「勅使河原茜展 ひらく」が開催された。家元が会場に選んだのは草月会館別館アトリエ。歴代家元の創造の場であり草月流にとって心臓部ともいえるこの場所は、周辺地域の再開発に伴い数年以内に取り壊される予定になっている。

作品はアトリエの建物内をはじめ、敷地のあらゆる場所に展示された。外階段、隣接する鉄工所、そしてダストボックスにまで。意外性に富んだ場所と融合した作品は来場者を大いに楽しませた。

メインとなったのは、鉄や流木、かいづかいぶきなどを用いた球体作品。蒼風作品の一部も組み入れられ話題となった。この作品について「草月や自分自身の歴史、植物のエネルギーが凝縮され、解き放たれる。新たな生命が生まれる瞬間を表現した」と茜家元は語っている。新たないけばなの可能性を感じさせたこの展覧会は、多くの人の心を癒やし勇気づけた。

季刊『草月』2022年春号（3月1日発売）にて「勅使河原茜展 ひらく」を特集。全作品と著名人の内覧会インタビューが掲載されます。
［草月出版］フリーダイヤル：0120-087-202

花が語るストーリー

2年ぶりとなる草月いけばな展が、草月会館にて開催された。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、各期2日間、9期制の少人数制の展示となった。

会期に先駆け、草月会館の正面エントランスには家元による大作が展示された。割竹の軽やかなカールが美しい作品は、青山通りを行き交う人たちの注目の的に。SNSにも多数投稿された。

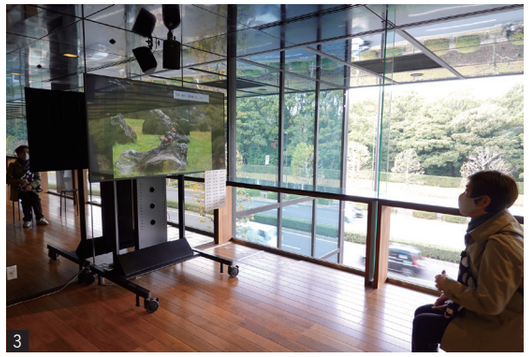
展覧会には5つの企画が。草月プラザではテーマカラーを設定した「色彩エリア」と「自由花エリア」、2階談話室では家元作の陶器花器を特別に使用した「家元継承20周年特別エリア」、小さな展示空間の「チャレンジエリア」、そして遠方からも出品可能な「写真いけばな」のコーナーが設けられた。開催に際し、家元は次のように寄せている。「人と人とのつながりが失われがちな今こそ、花が語る一人ひとりのストーリーに耳を傾けていただきたいと願っています」

合計出品数は430点。その全ての作品にその人が表現され、いける喜びに満ち溢れていた。

第102回草月いけばな展

マイストーリー —私の花語り—

2021年11月11日〜12月10日



（右ページ上）草月会館正面エントランスに展示された家元作品。（右ページ下）草月プラザの最上段の「色彩エリア」。6〜8期のテーマカラーは青。医療従事者への感謝の意味を込めた「MAKE IT BLUE」活動に協賛した。1 家元作の陶器花器にいけられた「家元継承20周年特別エリア」 2 来場者で賑わう草月プラザ 3「写真いけばな」のコーナー 4「チャレンジエリア」

Photo／Katsuhiro Ichikawa (P.6)

第102回草月いけばな展 受賞作品

新人賞

四級師範から一級師範総務までの出品者を対象に、
フレッシュな感性から生み出された独創的な作品に贈られる賞。審査は勅使河原茜家元。

米澤草織［1期］

大塚一好［2期］

岡村楓佳［7期］

佐々流彩［8期］

本庄雅香［9期］

中村洵摂［9期］

各期いけこみの終了後に家元による審査が行われた。完成度はもちろんのこと、サイズ規定が守られているかどうかも審査のポイントに。

季刊『草月』2022年春号(3月1日発売)では、第102回草月いけばな展を特集。恒例の新人賞受賞者によるコメントもどうぞお楽しみに。
［草月出版］
フリーダイヤル：0120-087-202

マイストーリー賞

勅使河原茜家元より贈られる賞。全作品が対象。

東和霞［3期］

モランジュ真紀子［7期］

河合里抱［5期］

田渕章流［7期］

筋野奈美［8期］

久保田芳生［6期］

福島光加［9期］

大久保有加［7期］

遠藤桜泉［4期］

Photo ／ Katsuhiro Ichikawa（作品）

長崎県支部展

私の花

11月19日～29日（4期制）
メガネのヨネザワ浜町店

1 小島星女支部長による作品。
2 迎え花は支部合作で。
3 4 5 4期合わせて約70名による展示となった。
6 壁作品にも挑戦。
7 ジュニア（3歳～小学生）も4期ともに出品した。

「私の花」に思いをこめて

長崎県を代表する繁華街・浜町アーケード内にあるメガネのヨネザワ浜町店にて、長崎県支部展が開催された。

5年ぶりの開催となった今回の支部展は、会場の規模やコロナ禍であることを考慮し4期制での開催に。支部のメンバー全員にとって初めての会場だったが、鏡張りのコーナー、壁作品を展示できるスペース等もあり、新たな制作にチャレンジできるよい機会となった。各々が花を見つめ、自分を見つめながら、いけばなにできることを「私の花」にこめて表現した。

昨年度から始めたインスタグラムも駆使しながら、草月いけばなの楽しさを多くの人に体感していただいた本展は、茜家元の家元継承20周年を記念するとともに、「花の力」を信じて前進し、未来へと繋ぐものとなった。

徳島県支部展

心おどれ！まっすぐに！

11月22日～24日
（屋外大作は27日まで展示）
徳島市役所

1 広場に展示された竹の大作。らせん状のペットボトルと、巨大なれんこんの葉を組み合わせて。
2 新田陛嘉支部長による作品。
3 4 5 6 屋内にも意欲作が複数展示された。
7 コロナ禍で開催が心配されたが、阿波おどりとのコラボレーションも無事実現。

阿波おどりとコラボ

徳島市役所にて、徳島県支部展が開催された。今回の支部展の核であり、市役所庁舎前の広場に展示した大作は、地元でも手に入りやすい竹を使用。アートに変化・造形できることが草月流の真骨頂と捉え、新型コロナウイルスの感染拡大に留意しながら制作に挑んだ。徳島市のブランドステートメントである「心おどる水都・とくしま」のイメージに合わせ、透明なペットボトルをらせん状に切ったものを組んだ丸竹に絡め、太陽光できらめくように制作。地元特産のれんこんの葉も加えて、より徳島らしさを表現した。

会期中の祝日には関連イベントとして「学生阿波おどり」も催され、大作と阿波おどりのコラボが実現。コロナ禍でも芸術・文化の香りを発信すると同時に、未来に向けての明るい希望を体現するものとなった。

ガラスと早春の花

花器の透明感をメインにした作品です。
まるで氷のようなクリアなガラスに、ぼけと椿が浮かぶ様子をイメージしました。
The transparency of the vase is the main feature of this work.
I imagined a scene where the Japanese quince and the camellia were floating on clear glass that looked like ice.

花材：ぼけ、椿　花器：自作ガラス花器　サイズ：66×70×100cm
Materials: Japanese quince, Camellia Vessel: Self-made glass vase

ガラス花器からあふれんばかりのミモザを主役にしました。
花器のオレンジからミモザの黄色、葉の緑から赤へというグラデーションも意識しながら。
The mimosa overflowing from the glass vase took center stage here. I also made sure to keep in mind the gradual shading from the orange of the vase to the yellow of the mimosa, and the green to the red of the leaves.

花材：あおもじ、ひいらぎなんてん、ミモザアカシア　花器：自作ガラス花器　サイズ：103×120×100cm
Materials: Litsea citriodora, Japanese mahonia, Mimosa Vessel: Self-made glass vase

静と動のコントラスト。
丸いあぶくを湛え静かに佇むガラス花器から、椿が交わり合いながら躍動するようにいけました。
The contrast between stillness and movement. I arranged the camellia in a glass vase filled with round bubbles and stood still as if the camellia was alive and moving as it interacted with the vase.

花材：椿　花器：自作ガラス花器　サイズ：70×75×110cm
Materials: Camellia　Vessel: Self-made glass vase

ガラス花器の青みを帯びた紫と、しもくれんの赤みがかった紫。かけ合わせることで新たな魅力が生まれます。
なのはなの黄色で２つの紫をいっそう引き立てました。
The bluish-purple of the glass vase and the reddish-purple of the Magnolia quinquepeta: a new charm evolved by combining these colors. The yellow of the field mustard further enhanced the two purples.

花材：しもくれん、なのはな　花器：自作ガラス花器　サイズ：82×88×75cm
Materials: Magnolia quinquepeta, Field mustard　Vessel: Self-made glass vase

没後20年企画
勅使河原宏の言葉と花［最終回］

草月は、

もっともっとアバンギャルドになってほしいと思う。植物を使った表現の可能性は無限にあるからだ。ということは、常にチャレンジしていく機会に恵まれているということだ。そうした精神をずっと持ち続けてほしいと思う。

Project for the 20th Memorial of the Third *Iemoto* [final one]

I want Sogetsu to become more and more avant-garde. This is because there are infinite possibilities for expression using plants. In other words, Sogetsu people are always blessed with the opportunities to challenge themselves. I hope that Sogetsu will keep that spirit forever.

勅使河原宏 いけばな作品
晒しからたち、もくれん
撮影：小澤忠恭
Ikebana work by
Hiroshi Teshigahara
Bleached golden-apple, Magnolia
Photo: Chukyo Ozawa

勅使河原宏の年表

2001年

4月14日、宏は急性リンパ性白血病に真菌性肺炎を併発、慶應義塾大学病院で急逝した。74歳だった。

2000年のはじめ、自ら病名を公表し、治療をしながら茶室の制作やイベントのプロデュースをこなす。翌年の2月7日、宏は5ヶ月ぶりで花をいけた。「花 面白かった。すべての出会いを新鮮に考えながらいけた」というメモ書きを残している。

このときいけた最後の作品は、晒しからたちと、もくれんをいけたもの。花器を使わずに剣山に挿した状態で完成とした型破りなものだった。

スペシャルインタビュー

勅使河原 萱

50の質問

次期家元を継承する萱さん。
決意後はどのように過ごし、何を考えたのか。

Photo／Yoshitomo Tanaka

季刊『草月』2021年春号の家元対談にて次期家元としての決意を語っていただきました。今回は会員の皆さんに萱さんのことをより知っていただくため、50の質問にお答えいただきたいと思います。

1——生年月日は？
1994年7月1日生まれ。現在27歳です。

2——血液型と星座は？
A型、かに座です。

3——ご兄弟は？
兄がいます。年子ということもあり、幼いころから双子のように仲がいいです。

4——現在のご職業は？
ニューヨークでコンサルティングの仕事に就いており、現在4年目です。M&A（企業の買収や合併）を専門にしています。

5——「萱（けん）」と命名された理由、いきさつを教えてください。
植物の「萱（かや）」に由来しています。萱は屋根の素材等にも使われますが、空気を含むため、夏は涼しく、冬は暖かい。そんな柔軟性をもってほしいという願いがこめられているそうで、祖父（宏家元）がつけてくれました。

6——一日の平均的なスケジュールは？
起床は6時半ごろ。2020年に首の手術をしたため、リハビリのためのエクササイズを1時間半ほど行ってから仕事を始めます。現在は大半がリモートワークで、夜9時、10時まで、ほぼ休まず働いています。

7——目覚めは良いほうですか？
ふつうだと思います。ストレスが重なった時は、眠りが浅くなるのか、逆に早く起きてしまうこともあります。

8——朝一番にすることは？
メールをチェックし、緊急の要件があれば、すぐ返信します。それがなければ、まずコーヒーを淹れてリハビリ、という流れです。

9——最近何か夢を見ましたか？
（取材時）年末年始で日本に帰国しているのですが、疲れがたまっていたのか、悪夢が続きました。しかも、やけにリアルな内容の（笑）。

10——一番最初の記憶は？
3、4歳ごろ、兄ととっくみ合いのけんかをしたことでしょうか。

11——ニューヨークで一番好きな場所は？
マンハッタンの西のほうに住んでいて、休日の朝に友人たちとハドソン川沿いを散歩することがあるんですが、その雰囲気が好きです。

12——ニューヨークでオススメの食べ物は？
わりと何でもおいしいですよ。日本にはない、特大の、肉肉しいステーキなんかもたまには食べます。

13——東京で一番好きな場所は？
やはり実家ですね。リラックスできますから。でも、今ではニューヨークに戻っても、自然と「帰ってきたな」という気持ちが湧くようになりました。こんなことニューヨーカーに言ったら怒られそうですけど（笑）。

14——日本に帰ってきたとき、必ず食べるものはありますか？
焼肉です。ニューヨークの焼肉は、値段が日本の倍以上するうえ、あまりおいしくないので。

15——自分の長所は？
必ず準備と努力をすることです。幼いころからずっとそうでした。

16——自分の短所は？
オン・オフが激しいところでしょうか。たとえば、仕事が忙しい平日は、誰かに会ったりということは考えられません。決して悪いことではないのかもしれませんが、時々精神的に辛くなることもあります。

17——ポジティブ派・ネガティブ派、どちら？
両方ありますが、ベースはネガティブ。でも、それをどうポジティブにしていくかを常に考えています。長所のところで触れた準備と努力もそう。心配性だからこそ万全に備えるようにしています。

18——インドア派・アウトドア派、どちら？
これも両方です。昔はアウトドア・オンリーでしたが、最近ではインドアも必要だと思うようになりました。たとえば、日曜日は出かけたとしても、夜は家でリラックスするようにしないと、リセットできないですから。

19——動物を飼ったことはありますか？
実家でシーズーを飼っていました。大学時代はルームシェアをしていた9人でジャーマンシェパードを飼っていました。服とか財布とか噛まれて大変でしたけど。

20——好きな色は？

青や白。服もそんな色ばかりです。
21――好きな花材は？
悩みますね。竹は男らしくてかっこいいなと思います。
22――好きな音楽は？
いろいろ変わりますが、ずっと聴いているのは60〜90年代のロックです。
23――宝物はありますか？
プレゼントでいただいたものは、下着も靴下もすべて宝物です。そういう人の思いや感情が入ったものは大切にするようにしています。
24――今まで影響を受けた、または尊敬している人はいますか？
母、そして友人。努力している人の姿は自分にとって何よりのモチベーションになります。
25――今でも印象に残るアドバイスは？
一緒に暮らしていた祖母から、日本人ならではの気遣いやマナー、「人としてこうあるべき」というベースを叩きこまれました。自分は日本人ですし、いけばなの家に生まれましたから、それは良かったと思っています。
26――本や、テレビ、ゲームなどで最も印象深い作品は何ですか？
バイオグラフィ（伝記）はよく読みます。有名・無名を問わず人の内面を知ることができるのは面白い。最近では、デイビッド・ゴギンズ（元米国軍人、ウルトラマラソンのランナー）のバイオグラフィを興味深く読みました。
27――趣味を一つ挙げるとすれば？
今は料理。機会があれば、豪華なキッチンで思いきり作ってみたいです。
28――やってみたい趣味はありますか？
絵、写真、ギター等、クリエイティブなことにチャレンジしてみたいです。でも、どれも一人でやるものですよね。自分は人と何かをするのが好きなので、結局やらないかも（笑）。
29――一番好きな景色は？
友人の家がマンハッタンから車で2時間ほどの山にあるのですが、その大自然に囲まれて、コーヒーを飲んでいるとき心が落ち着きます。
30――今、行きたいところはどこですか？
日本に生まれ育って、スキーもやっていたのに、実は北海道に行ったことがないんですよ。北海道の雪は素晴らしいと聞くので、そこで滑ってみたいです。
31――何をしているときに幸せを感じる？
家族や友人と一緒に過ごしているときです。
32――マイブームはありますか？
ゴルフです。ゴルフってどんなに練習しても一生うまくならないんですよ。何か一つ改善しても、また別の課題が出てくる。だからこそ何歳になっても続けられるんですね。
33――今までにスランプを感じたことはありますか？
仕事はスランプのくり返し。ゴルフと同じで、スランプを重ねながら改善していくものだと思っています。
34――ストレス解消法は？
特にストレス解消法と認識してはいないのですが、有酸素運動をしてシャワーを浴びると無になれます。そんなときにふとアイデアが浮かんできたりするんですよ。
35――自分にとってのご褒美は？
食事。平日は健康的な食生活にしていますが、週末は好きなものを思いきり食べます。
36――健康のために心がけていることは？
食事と運動です。特に食事は学び始めると栄養のこともわかり、バランスよく食べるようになりました。
37――友人との会話で一番多い話題は？
時には仕事の話もしますが、大半はバカバカしいことばかり（笑）。だからこそ、昔からの友人たちとも変わらない関係が保てるんでしょうね。
38――大きな決断するとき、どのような基準で判断を行うことが多いですか？
周りの意見を聞くようにしています。昔はそれが恥ずかしかったのですが、今は信頼できる人にはすべて話せるようになり、気持ちがラクになりました。
39――どんなタイプの人に好感をもつ？
祖母の教えにも繋がっていますが、気遣いのできる人。自分のことより周りのことをまず気にかけられる人です。
40――最近うれしかったことは？
こうして日本に帰国できたことです。
41――最近怒ったことは？
空港で自分のスーツケースがなかなか出てこなかったこと（笑）。ふだんは決してカッとなるタイプではありませんが、言うべきことは言う

一緒に暮らしていた祖母から、
日本人ならではの気遣いやマナー、
「人としてこうあるべき」というベースを叩きこまれました。

ようにしています。

42――最近悔しかったことは？

帰国前に上級者とテニスをしたのですが、すぐに息もできないくらいにバテてしまって……。あれはちょっと悔しかったというか、恥ずかしかったな。

43――2021年の一番の思い出は？

最近の話になってしまいますが、もろもろ手筈が整って「日本に帰れるぞ」となったタイミングで友人とドライブに出かけたんです。ちょうど夕日がきれいな時間で、音楽もいい感じでかかっていて……。そのときのことが印象に残っています。

44――2022年にやりとげたいことは？

今はまだ四六時中首が痛いので、早く治してふつうの状態に戻したいです。

45――今、一番欲しい物は？

物ではないです。新しい首が欲しい！

46――今、一番関心のあることは？

今回の帰国中に、草月のアトリエに行って門松を作ったのですが、竹を16枚割にする工程等を初めて見たんです。これまで竹作品は何度も見てきましたが、それにどれだけの手間や時間がかかっているのか知ることができて、非常に興味深かったです。

47――茜家元の作品で一番印象に残っているものは？

数年前にコロンビア大学病院でデモンストレーションを見たときのことです。僕は作品が完成したらくるりと観客側へ回すと思っていたんですよ。でも、終始観客側を正面にしていけていた（後ろいけ）ことに気づいて、後で母にそのことを伝えたら「草月の人はみんなできるのよ」と言われて度胆を抜かれました。

48――茜家元と自分が似ているな、と感じるところは？

人の感情を見ながら対応するところです。たとえそれが表に出ていなくてもわかる。なので、母も含めて誰かとしゃべっていて、後から「あの人、怒ってたね～」等と2人で話したりすることがよくありました。

49――季刊『草月』2021年春号の家元対談にて、次期家元としての決意を語っていただきました。その後、継承に向けて始めたこと等はありますか？

草月の会議にリモートで参加するようになったので、業務の流れを把握しつつはありますが、もっと勉強が必要だと感じています。今後は現在のコンサルティングの仕事とバランスをとりながら、草月の比重を増やしていきたいと思っています。

50――家元継承20周年を迎えた茜家元へひとことお願いします。

祖父が亡くなり、いきなりすべてを背負ってから20年もの年月がたちました。それが息子として、人として、たいへん誇らしく、そして、ありがたいと思っています。そんな母の姿勢を見てきたからこそ、草月の家元になろうと決意ができましたし、自分にとってモチベーションになっています！

勅使河原 萱

てしがはら・けん／1994年、茜家元の次男として生まれる。西町インターナショナルスクール、アメリカンスクールインジャパンを経て、米国のトリニティカレッジにて経済学を専攻。現在はニューヨークの大手コンサルティング企業に勤務する。

アートギャラリーの花

勅使河原茜展「いけばな草月流 家元継承20周年記念
2021年11月24日～27日
タカ・イシイギャラリー
ビューイングルーム

東京・天王洲の寺田アートコンプレックスに新しく創設された、現代アートシーンを先導するタカ・イシイギャラリーの展示室にて、茜家元の作品展が行われた。

メインは竹、いいぎり、かりん、椿などがいけられた作品。蒼風の屏風とともに展示されたこの作品は植物のエネルギーに溢れ、アートファンの注目を浴びた。そのほか、茜家元の自作花器にいけたいけばなが展示された。

茜家元作品。中央には蒼風作の屏風が。　Photo／Naoki Fujioka

茜家元によるいけばな作品とともに、蒼風のブロンズ作品（右写真・左）が展示された。

大樋焼とのコラボ

大樋美術館30周年
勅使河原茜家元継承20周年
大樋美術館 家元作品展示
2021年12月18日・19日
大樋美術館

石川県支部主催講習会
2021年12月18日
ホテル日航金沢

金沢で350年以上の歴史を持つ大樋焼。先代家元・勅使河原宏が大樋陶冶斎（十代大樋長左衛門）氏と東京美術学校（現東京藝術大学）の同級生だったことから、草月とは長年の交流がある。大樋美術館30周年、茜家元継承20周年を記念し、大樋三代（陶冶斎氏、十一代長左衛門氏、奈良祐希氏）の器に茜家元がいけた作品、石川県支部作の合作を特別公開した。

また、同時期に石川県支部主催講習会が開催され、家元のデモンストレーションと、大樋長左衛門氏とのトークショーが行われ、いけばなと陶芸の未来について貴重な話が繰り広げられた。

季刊『草月』2022年夏号（6月1日発売）にて大樋美術館での家元作品が掲載されます。

石川県支部主催講習会のトークショー。左が十一代大樋長左衛門氏。

大樋美術館に展示された石川県支部の合作「祈りの輪」。

新年のご挨拶

家元からの新年のご挨拶
2022年1月1日
草月会館

家元による初いけと、新年のご挨拶がホームページにて配信された。「いけばなは、その人のその時々の人生に寄り添ってくれる生涯の伴侶のような存在ではないでしょうか。どうぞ今年も、皆さまがそれぞれの場所で、それぞれのやり方で、いけばなを楽しんでくださること、そして笑顔いっぱいでいてくださることを心から願っています」

初いけでは、高知のグロリオーサを使用した作品もいけられた。

国際交流の場に

いけばなインターナショナルフェア2021
2021年12月14日
ロイヤルパークホテル

いけばなインターナショナル名誉総裁、高円宮妃久子殿下御臨席のもと、いけばなインターナショナルフェアが開催。各流派の作品が展示される中、草月流は本部講師の篠崎洵雅さんが代華を務めた。また各国大使館のブースも出展され、その国の文化を知ることができる国際交流の場となった。

篠崎洵雅さんの作品。

新たな芸術の共創

Arita×Sogetsu ～有田焼窯元と草月流華道家との新たな試み～
2021年12月14日～18日
草月会館2階談話室

有田焼の窯元が、草月流と協働で花器を開発。その花器にいけた作品の展覧会が行われた。

佐賀大学、株式会社ARITA PLUSの皆さんと草月流の内藤華了さん、後藤麗美さん、平井夏光さんが1年以上をかけ「花器としての有田焼」を研究。新たな芸術の共創に今後を期待する声も。

内藤華了さんデザイン、寺内信二さん制作の花器に、後藤麗美さんが花をいけた作品。

いけばなパフォーマンス

座・草月　暮の御挨拶
2021年12月11日
草月会館別館アトリエ

座・草月の単独公演が行われた。「パフォーマンスで、皆さまの不安を吹き飛ばしたい」という強い思いから開催。今回はドラムとベース奏者を客演に迎え、前回よりさらにパワーアップした内容を披露した。火花散る鉄の船の制作や、祝い花をいける工程など、ダイナミックないけばなパフォーマンスで会場は大興奮の熱気に包まれた。

力強いパフォーマンスに湧く会場。

体調がすぐれない方は、ご来館をお控えください。

家元研究科

毎回テーマが設けられ、いけばなをさらに深く追究することを目標とします。
感性と技術を磨く最高の勉強の場です。AT賞選考対象クラス。
各回とも、講師のデモンストレーションをご覧いただけます。

	金	土	月	テーマ	講師
	14時/18時	10時30分/14時	10時30分/14時		
3月	11日	12日	7日	大いに冒険!!	家　元
4月	22日	23日	25日	一種いけ　枝・葉・花	小沢清香

●申込方法：新入会をご希望の方は、TEL・FAX・E-mailで事前にご連絡ください。毎月の受講は、日程・時間をご確認の上、ご来館ください。 ●受講料：12,200円（花材費込み） ※受講日に草指連会員証をご持参ください。※4月は花材の持ち込みはできません。

家元教室

資格を問わず、どなたでもご参加いただけるいけばな教室です。
ワンレッスン受講することもできます。

3月	火曜	1日	坂口水恵	8日	中村草山	15日	篠崎洵雅
	木曜	3日	加藤久美子	10日	隅出美泉	17日	岡崎　忍
4月	火曜	5日	中村草山	12日	加藤久美子	19日	坂口水恵
	木曜	7日	岡崎　忍	14日	篠崎洵雅	21日	隅出美泉

●原則として6日間、第1・2・3火曜と木曜　●10時30分/14時/18時（各日3回開講）　●入会金：11,000円
●月謝：12,040円（月3回分・花材費別）※証書申請可能。 ※再入会金無料。再入会をご希望の方は事前にご連絡ください。
※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可（6,440円・花材費込み／都度払い）。

男子専科

初心者からベテランまで、男性限定のいけばな教室。
いけばな作家や男性指導者の育成をめざすクラス。随時受付。

3月	4日（金）　岩渕幸霞	4月	8日（金）　西山光沙
	9日（水）　西山光沙		15日（金）　澤田晃映
	18日（金）　澤田晃映		20日（水）　岩渕幸霞

●開催日は水曜1回、金曜2回　●18時（受付：17時45分～19時30分）　●入会金：11,000円　●月謝：12,040円（月3回分・花材費別）※家元教室・家元研究科への振替ができます。 ※証書申請可能。 ※再入会金無料。再入会をご希望の方は事前にご連絡ください。 ※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可（6,440円・花材費込み／都度払い）。

インターナショナルクラス

外国の方々を対象としたクラスです。授業は英語で行われます。

3月	7日　福島光加	4月	4日　細野葉霞
	14日　坂口水恵		11日　高木水染
	28日　高木水染		18日　福島光加
			25日　坂口水恵

●毎週月曜日　●10時30分～12時30分　●受講料：5,600円／1回（花材費込み。月4回目以降は5,240円）
※証書申請可能　※祝日は休講となります。

本部教室
〒107-8505 東京都港区赤坂7-2-21 ／ TEL：03-3408-1209 ／ FAX：03-3405-4947 ／ E-mail：kyoshitsu@sogetsu.or.jp

※日程、講師は変更になることがあります。また、新型コロナウイルス感染症の影響や、天災及びその他不可抗力による事由により、開講を延期または中止する可能性がございます。予めご了承ください。開講予定や申込受付等に変更が生じた場合は随時告知いたしますので、草月流ホームページをご確認いただくか、教室運営課までお問合わせください。

本部教室
〒107-8505 東京都港区赤坂7-2-21／TEL：03-3408-1209／FAX：03-3405-4947／E-mail：kyoshitsu@sogetsu.or.jp

公開講座

普段のお稽古ではなかなかチャレンジできない内容で創造性を大きく伸ばすチャンス！
経験豊富な講師の講義で、知識と技の引き出しがさらに広がります。

受講日	テーマ	講師	内容
3月12日（土）	春のまぜざし・いろいろ	岩渕幸霞	2020年3月より延期、再募集です!! 春、植物の息吹を感じる季節です。 生命力あふれる花木類や着色花材を使い、 豊かな色彩のハーモニーを楽しみましょう。 既成概念にとらわれない自由な発想を大切に、 春色のはずむような雰囲気を表現しましょう。
3月30日（水）	わたしだから、 この器！　この表現！	篠崎洵雅	いけばなにとって器は、素材と並んで重要な要素です。 今回は、器と植物の関係を、いつもより深く追究してみましょう。 この花器だから、この発想。 自分だけの表現を目指して……「私の花」に。
4月23日（土）	ドローイングから 生まれる線を大切に	秋山美晴	2021年5月より延期、残席わずかです!! 普段は手に取った植物から線を見出し、いける事が多いように感じます。 今回は切り口を変え、ドローイングを何枚も重ねた中から1枚を選び、その絵に描かれた線のイメージで、植物をいけてみます。感情を自由に線に乗せ、制作の楽しさを感じてください。

●授業時間：10時30分～16時　●受講料：12,970円（材料費・昼食代込み）／入会金なし
●申込資格：草指連会員　●定員：40名　●募集：随時受付中。郵便振替または会員サービス部窓口でお申込みください。
［郵便振替口座］口座番号：00180-6-119808／加入者名：（一財）草月会 教室運営課　※払込取扱票の通信欄に（お持ちの方は）メールアドレスをご記入ください。
●申込締切：開催日の1週間前（ただし定員になり次第締め切ります）　※お申込み後のキャンセル・ご返金はいたしかねます。
※お申込み後でも、翌月以降（年度内）に振替受講が可能です。ご希望の方は、受講日の10日前までにご連絡ください。
それ以降のご連絡の場合、実費（材料費および昼食代）をいただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

草月流最高峰「家元研究科」で、感性と技術を磨いてみませんか？

家元と個性豊かな講師3名によるデモンストレーションとき細かな講評、全国から集まる受講者のハイレベルでバラエティに富む作風に触れ、感性と技術を磨きましょう。
イベント開催が難しい昨今、家元のデモンストレーションを間近にご覧いただける唯一のチャンスです。
入会金・再入会金は無料です。初めての方、久しぶりにお稽古を再開されたい方も大歓迎。
草月指導者連盟会員であれば、4級師範からでも参加可能です。

受講者は、家元継承を記念して茜家元のイニシャルから命名・創設された最も栄誉ある賞の一つ「AT賞」選考会に参加でき、受賞者は「花に感謝の日」式典で表彰されます。

AT賞受賞者に出品資格が与えられる「AT賞展」（第9回）の様子。

本部教室、草月WESTでは、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して受講する皆さまをお迎えしております。各教室の詳細は25ページ、27ページをご覧ください。

草月WEST
〒600-8842 京都府京都市下京区朱雀堂ノ口町20-4 ホテルエ〝オン京都一階／TEL：075-366-3647／FAX：075-366-3648／E-mail：west@sogetsu.or.jp

家元研究科

講師からはテーマは出ません。受講者自らが考え、自由に植物表現を探究します。新入会・再入会大歓迎。AT賞選考対象クラス。

	金曜	土曜	探究「私の花」	講師
	14時30分	10時30分／14時30分	私はなぜ花をいけるのか？ 私が目指す植物表現とは？ 私が追究したい素材は？ 自由花って何？ 自分がすべきことは何かを受講者自ら考え、草月らしく自由に楽しく新しく、植物表現を探究しましょう。それを積み重ねてゆくことでそれぞれの「私の花」がより輝きます。講師が今の「私の花」を受講者に披露するデモンストレーションもあります!!	
3月	18日	19日		竹中麗湖
4月	15日	16日		福島光加
5月	20日	21日		竹中麗湖

●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。●受講料（家元）：12,200円（花材費込み）／（本部講師）：10,100円（花材費込み）※授業開始の20分前から受付を開始します。
※当面の間、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため受講人数を制限しております。

入会金、再入会金が不要となりました!

家元教室

毎回テキストのテーマからの2作、講師のデモンストレーションがあります。たっぷり勉強できる充実の2時間。土曜日14時30分からの家元教室は、オンラインでも受講できます！

3月	金曜	4日　片山 健	11日　中村草山	25日　中田和子
	土曜	5日　〃	12日　〃	26日　〃
4月	金曜	1日　澤田晃映	8日　加藤久美子	22日　石川己青
	土曜	2日　〃	9日　〃	23日　〃

●月3回　金曜・土曜　●金曜（14時30分／18時30分）、土曜（10時30分／14時30分）　●入会金：11,000円　●月謝：11,000円（月3回分・花材費別）●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。 ※証書申請可能。 ※月3回受講することが難しい方はワンレッスン受講も可能（4,500円・花材費1,700円／都度払い）。 ※見学可能。

再入会金が不要となりました!

土曜日14時30分からの家元教室は、オンラインでも受講できます！

公開講座

ご希望のクラスを1回ごとにお申込みできる魅力ある講座です。
講師の個性がいかされたテーマにチャレンジできます。ぜひご受講ください。

受講日	テーマ	講師	内容
3月8日（火）	これぞ草月 研究素材は「木」 貴方は建築家	大久保雅永	素材の木は、割箸を100膳ほどと、紙粘土を使います。 建築家になったつもりで、草月風にアレンジします。 完成した作品に、枝1本、花1本を配置いたします。 ※2021年6月8日からの延期分です。
4月19日（火）	発想の同一線上に、 植物と鉄はある	中田和子	植物と鉄に対峙するときの姿勢は同じです。 使用する鉄は薄く扱いやすいものなので、切ったり曲げたり、ゆがめたり、ときには傷つけたりしながらその可能性を探ります。 各自の個性にあふれた、‘植物と鉄の魅力’を発見できるはずです。

●授業時間：13時～16時　●受講料：4,400円（教材費別）●定員：20名　●申込方法：はがき・FAX・E-mailなどの書面で、希望日・名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連会員番号をご記入の上、草月WESTまでお送りください。●申込締切：開催日の前々週の週末（ただし定員になり次第締め切ります）

※日程、講師は変更になることがあります。また、新型コロナウイルス感染症の影響や、天災及びその他不可抗力による事由により、開講を延期または中止する可能性がございます。予めご了承ください。開講予定や申込受付等に変更が生じた場合は随時告知いたしますので、草月流ホームページをご確認いただくか、草月WESTまでお問合わせください。

草月WEST
〒600-8842 京都府京都市下京区朱雀堂ノ口町20-4 ホテルHMオン京都一階 ／ TEL：075-366-3647 ／ FAX：075-366-3648 ／ E-mail：west@sogetsu.or.jp

いけばな草月流がお届けする、アートと文化のオープンセミナー

SOGETSU X No.3「デッサン ―植物との対話―」

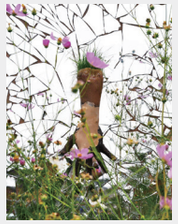
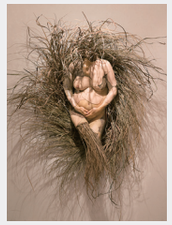
講師：Shu KONISHI（アーティスト）

さまざまなジャンルと草月が X（クロス）して、新しい発見・体験を生み出す「SOGETSU X」。
第 3 弾ではアーティストの Shu KONISHI 氏を迎えての 3 回講座を開催します！ 'デッサン' は、草月のテキストでも取り入れられている、いけばなの学習において大切なテーマの一つです。描く対象をよく観察し、新たな発見を可能にする眼を育てましょう。

＜講師略歴＞
京都府生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。特殊メイクアップアーティストとして長年テレビ・映画等数々の作品を手掛けた経歴を持ち、その制作工程の技術「人体の型取り」から 作品を生み出す独自の手法で独創的な造形作品「ライフキャストアート」の制作・発表を続けている。

＜講師メッセージ＞
私の作品は特殊メイクが原点で、生身の人間や植物を含んだ命というものに注目しています。実際に呼吸をするモノたちがもつ生命感や空間との関係性。それらを魅力的に描き出すためにはよく観察することが必要です。見慣れたものを更に観察することは、創造の出発点です。

●講師作品

受講日（水曜日）		時間	内容
第1回	4月13日	13時～16時	【講義】デッサン概論 【体験】簡単トレーニング 見慣れたモノでもデッサンすることによって新たな印象を体験します。
第2回	5月18日	12時～16時 ※開始時間注意	【実習】人と植物のデッサン 美しいと感じる構図で丁寧に再現(デッサン)する。モデルと植物の関係性を感じ、描き出します。
第3回	6月15日	13時～16時	【講評】人それぞれの個性を体感 周囲の作品を見ながら個性の違いを感じ、楽しみましょう。 【コラボレーション】デッサンといけばな 自身のデッサンといけばなを出合わせます。

●受講料：35,200 円（3 回分全納・教材費込み）●申込資格：草月学習者（初心者からベテランまでどなたでもご受講可）
●申込方法：はがき・FAX・E-mail などの書面で、名前・草指連会員番号（お持ちの方）・住所・電話番号・メールアドレス・門下別（または所属教室名）をご記入の上、草月 WEST までお送りください。●定員：20 名 ●申込締切：3 月末日

講師作品といけばなのコラボレーション展示

講座の開講に先立ち、講師の作品展示を行います。
Shu KONISHI 氏の世界をご堪能ください。

会場：草月 WEST ギャラリー KOTOHA
日時：3 月 3 日（木）～ 23 日（水） 10:00 ～ 17:30
いけばな：高嶺一染

受講生募集のお知らせ **テキスト集中講座 2022** 「教えるために」「学ぶために」「楽しむために！」

草月いけばなのエッセンスが凝縮された草月カリキュラムに注目した草月 WEST オリジナルのクラスです。ぜひこの機会に、今一度テキストに再チャレンジしてみませんか？
※日程及び講義内容の詳細は、次号にて発表いたします。

草月WEST
〒600-8842 京都府京都市下京区朱雀堂ノ口町20-4 ホテルHMオン京都一階 ／ TEL：075-366-3647 ／ FAX：075-366-3648 ／ E-mail：west@sogetsu.or.jp

草月WESTオリジナルクラス

花の達人への道 ―「総合篇」

4 月開講！ 受講生募集!!

延期になっておりました「総合篇」(2021年10月開講予定分)が、いよいよ4月からスタート。
「草月WEST」へ場を移しさらに幅広く実践することができるようになった人気のクラスが、10期目の今期、よりパワーアップいたします。
『達人』への道を着々と歩んでいる方も、これから『達人』を目指して歩み始める方も、着実にステップアップできます。
今期は「総合篇」として、よりスペシャルな授業内容となります。エスコートするのは、片山健師範と杉岡宏美師範。リラックスした雰囲気の中、的確に導いてくれるいつものお二人です。開講日も日曜日の午後のまま、リピーターも多く、魅力ある講座です。もっと知りたいこと、もっと極めたいこと、ちょっと苦手なことにもチャレンジできます！！
この機会に、思いきって参加してみませんか？

すべて“日曜日”開催

受講日	講師	テーマ	
4月10日（日）	片山 健	指導の達人	指導の楽しさとコツを学ぶ ―“後ろいけ”を活用して
5月15日（日）	杉岡宏美	季節花の達人	―夏色を意識する― 新緑や夏の花、水・光等の魅力を様々な器で
6月12日（日）	杉岡宏美	枝の達人	枝もの三昧！―釘やドリルなど留め方の 技術を駆使して
7月10日（日）	片山 健	特殊花材の達人	すいれん・こうほねの徹底研究
8月7日（日）	片山 健	空間の達人	「アートとの語らい」と空間 ―草月WESTの変貌
9月11日（日）	片山 健 杉岡宏美	大作の達人	秋をいけよう―ホテルエミオン京都を飾る―

片山 健

杉岡宏美

授業風景

釘やドリルなど、留め方のテクニックを駆使して大作にも挑戦。
右は作品例。

● 日時：2022 年4 月から全 6 回コース／ 原則として日曜日開講／13 時～16 時 ● 受講料：66,000 円（花材費込み）
● 受講資格：草指連会員 ● 定員：20 名 ● 申込締切：3 月 26 日（土）（ただし定員になり次第締め切ります）
● 申込方法：窓口またははがき・FAX・E-mail などの書面 で、名前・雅号・住所・電話番号・資格・門下別・草指連番号をご記入の上、草月 WEST までお送りください。

本部講師のデモンストレーション動画のサブスクリプションサービス

anytime SOGETSU

草月流本部講師による、いけばなデモンストレーションの動画が月額定額で見放題となるサービスが始まりました。草月のテキストに掲載されている各テーマより、実際に草月 WEST 家元教室などで披露されたものを、何度でも必要な時にご覧いただくことができます。毎月新しい動画が追加されます。

50 本以上の動画を見放題 2,200 円（月額）
※動画の個別販売もあります 1 本 550 円（30 日間見放題）

anytimeSOGETSU には、草月流ホームページの「草月を習う」メニューより、
または右上の QR コードより、どなたでもお入りいただけます。
https://www.sogetsu.or.jp

教室では見られない手元が収録されている動画もございます。

トップページの一番下には、無料のサンプル動画がございます。

年間行事予定

3月9日(水)〜14日(月)	第60回いけばな協会展(新宿髙島屋 11階催会場)　※家元通期出品
3月25日(金)	財団理事会(草月会館／11時〜)／花に感謝の日(草月ホール)
3月30日(水)〜4月5日(火)	勅使河原茜家元によるいけばなインスタレーション(日本橋髙島屋S.C.)
4月13日(水)〜18日(月)	創立55周年記念 日本いけばな芸術九州展(熊本鶴屋百貨店)　※家元通期出品
5月12日(木)・13日(金)	全国支部長会議(草月会館)
6月3日(金)	財団理事会(草月会館／11時〜)
6月8日(水)〜26日(日) ※期間中断続的に開催	草月いけばな展(草月会館 2階談話室)　※詳しくは表紙裏をご覧ください
6月17日(金)	財団評議員会(草月会館／11時〜)
7月29日(金)・30日(土) ※予定	サマーセミナー(草月会館)
10月19日(水)〜24日(月) ※予定	第103回草月いけばな展(日本橋髙島屋S.C.)
11月23日(水・祝) ※予定	家元講習会(草月ホール)

本部主催支部研究会・講習会

奈良県支部	2月27日(日)	研究会　草月WEST	早川邦篁	☎ 0745-52-1747
兵庫県支部	3月13日(日)	研究会　兵庫県民会館	大向佐都	☎ 079-492-8918
茨城県支部	4月10日(日)	講習会　ワークプラザ勝田	大森灑泉	☎ 0294-43-5588
石川県支部	4月24日(日)	講習会　石川県女性センター	谷口桂蒴	☎ 0761-24-1813
静岡県支部	5月15日(日)	研究会　三島商工会議所 TMOホール	大澤秀紅	☎ 055-986-4023
山形県支部	5月22日(日)	講習会　山形県白鷹町文化交流センター あゆーむ	長谷部千仁	☎ 0238-23-5709
埼玉県支部	6月4日(土)	研究会　埼玉会館	岡本和絮	☎ 048-886-4011
北海道支部	6月26日(日)	研究会　※家元　札幌市教育文化会館	池田好佳	☎ 011-511-9506

各地の展覧会

「氏家雛めぐり」に合わせた野外竹art展示〜草月流〜	2月5日(土)〜3月6日(日)　栃木県指定文化財 瀧澤家住宅	木村爽陽	☎ 090-7830-7792
山田邦子となかま展	2月10日(木)〜15日(火)　山形屋1号館7階 ななテラスギャラリー	山田邦子	☎ 099-278-1765
はじめの一歩　藤巻芳紅となかまたち	2月12日(土)・13日(日)　ドイツ文化会館(港区赤坂) 1階ロビー	藤巻芳紅	☎ 090-1269-0756
ぐるーぷ紅の会いけばな展	2月12日(土)・13日(日)　プリオ5階 やねのにっぽうホール豊川	西尾有浩	☎ 0533-84-2106
アートフェア東京 2022 ※座・草月が「草月ギャラリー」名義で出展	3月11日(金)〜13日(日) 東京国際フォーラム ホールE、ロビーギャラリー	花プロジェクト部 ☎ 03-3403-5278	
「花散歩」K-スタジオの仲間たち	3月12日(土)・13日(日)　札幌市民交流プラザ SCARTSスタジオ	金井恵秋	☎ 011-640-5575
佐倉洋佳と仲間達 hanaシリーズ No.4 「木(boku)＋hana展」	3月19日(土)〜21日(月・祝)　さいき城山桜ホール ※2021年9月23日(木・祝)〜26日(日)より会期が変更になりました	佐倉洋佳	☎ 090-5020-8703
あそぶ会グループ展「あそぶ」	3月30日(水)〜4月2日土)　世田谷美術館 区民ギャラリー	渡辺彩花	☎ 090-7718-9511

支部展

東京北支部展「NEXT! こころを結ぶ花」　※家元出品　2月11日(金・祝)〜13日(日)　シアター1010		加藤湖昌	☎ 03-3996-4238
沖縄県支部展「花で元気に！」	第1期「旅立ち・出発」:3月9日(水)〜14日(月) デパートリウボウ	森下翠明	☎ 098-960-8260
	第2期「春のおとずれ」:3月16日(水)〜21日(月) プラザハウスショッピングセンター		
愛媛県支部展「天空を仰ぐ」　4月23日(土)・24日(日)　松山城 二之丸史跡庭園 ※4月21日(木)・22日(金)公開制作		栗林梅光	☎ 089-978-2959
岩手県支部展「未来へつなぐ花」　5月14日(土)・15日(日) いわて県民情報交流センター アイーナ 4階県民プラザ、5階ギャラリー		四役滋陽	☎ 019-623-5548
福岡県支部展　※家元出品　5月19日(木)〜24日(火)　博多阪急 8階催場		片山紅早	☎ 090-4996-0667
静岡県支部展「1歩前へ」ブロック展 part I　5月27日(金)〜29日(日)　沼津御用邸記念公園 西附属邸		大澤秀紅	☎ 055-986-4023

フラワーク

とらや赤坂本店	2月	1月28日〜2月25日	塚本草昌	赤坂見附
	3月	2月26日〜3月25日	江川祥	
	4月	3月26日〜4月25日	藤倉清佳	
ザ・キャピトルホテル東急		常設	杉岡宏美	溜池山王・国会議事堂前
赤坂エクセルホテル東急		常設	飯岡湖武孜	赤坂見附
ホテルニューオータニ東京(ロビィ階)		2月8日まで	川名哲紀	赤坂見附・永田町・麹町
		2月8日〜3月8日	五十野雅峰	
横浜ベイホテル東急(B1階神殿口)		常設	深澤隆行	みなとみらい・桜木町
ラフォーレ原宿 2.5階 GR8		常設	座・草月	明治神宮前・原宿
ホテルエミオン京都(笹屋伊織 別邸・3階ロビー)		常設	高嶺一染	梅小路京都西
柏髙島屋ステーションモール 春の館内装飾 2月16日〜28日		S館3階:前田早苗		柏
		S館7階:山本彩華		
		新館4階:野村浩秋・飯田砂晶・八島希春		
草月会館日本間 開場時間:初日は午後から、最終日は午前中まで		2月10日まで	中村草山	青山一丁目
		2月14日〜25日	澤田晃映	
		2月28日〜3月12日	五十野雅峰	
		3月14日〜25日	川名哲紀	
		4月4日〜15日	江口玉枝	

【草月コレクションがご覧いただけます】
●「ミロ展―日本を夢みて」にてジュアン・ミロ作品４点が展示されます。
2月11日(金・祝)〜 4月17日(日)　Bunkamura ザ・ミュージアム　問：☎ 050-5541-8600　※要予約
4月29日(金・祝)〜 7月3日(日)　愛知県美術館　問：☎ 052-971-5511
7月16日(土)〜 9月4日(日)　富山県美術館　問：☎ 076-431-2711

【草月会館土・日・祝日特別開館日】草月会館の特別開館日は、以下の通りです。その他の土・日・祝日は、草月会館は休館しております。
2月5日(土)、3月12日(土)、4月23日(土)、5月14日(土)、6月11日(土)　※草月WESTは月曜休み、祝日はオープンし翌営業日を休みとします。

このページに掲載されているイベントは内容が変更になる場合がございます。本部にお届け済みのイベントが中止または延期となった場合は、広報部までご報告くださいますようお願い申し上げます。［ 広報部 ］ TEL:03-3408-1158 ／ FAX:03-3405-4947 ／ E-mail:pr@sogetsu.or.jp

以下のイベントは中止または延期となりました。お出かけの際はご注意ください。

【中止】●大阪支部研究会(大阪市港区民センター)　2月13日(日)　問:島田真美楓 ☎ 06-6370-7331
【中止】●大分県支部講習会(アイネス 大分県消費生活・男女共同参画プラザ)　2月13日(日)　問:山口功葉 ☎ 097-536-3202
【中止】●広島県支部研究会(広島市南区民文化センター 3階大会議室)　2月20日(日)　問:山上晶絵 ☎ 084-943-5676
【中止】●山梨県支部研究会(山梨県立青少年センター)　2月23日(水・祝)　問:五味鶯恵 ☎ 055-253-1660

Information

Online Seminar for overseas Branch/SG in 2022

How about applying a seminar with other branches or study groups? Or holding a viewing session with members gathered in one or a couple of locations so that they can enjoy together. Whatever suits you best.

The requests for themes, Master instructor of the HQ in charge, or specific materials of the season can be made. The demonstration and workshop are assisted by a Sogetsu Atelier member or an assistant of Sogetsu HQ class. Please enjoy live atmosphere relayed from the classroom of the Sogetsu Kaikan.

A	Demonstration only (6-7 ikebana arrangements from small to large sizes)	80 mins.
B	Demonstration and lecture (4-5 ikebana arrangements from small to large sizes)	
C	Demonstration (3-4 arrangements) and Workshop (Max.10 persons) (Eligible Work Shop participants: above 3rd Certificate and a member of branch/study group) *The workshop is open to viewing-only members if the host group accepts.	100 mins.
D	Workshop only (Max. 12 persons) (Eligible Work Shop participants: above 3rd Certificate and a member of branch/study group) *The workshop is open to viewing-only members if the host group accepts.	90 mins.

Application due date: 28th February 2022
Download the application form from the news section of the STA members online page. Send the filled form by e-mail to Overseas Affairs Department under the name of the director/chairperson of the representative group.
*Not on a first come, first served basis.
*The availability of instructors and classroom is limited. Please give us a couple of possible dates.

For your help
Contact list of the Branches/SGs
The HQ have compiled the contact list of those Branches/SGs who consent privacy policy.
For the security reason, we will hand in the list only upon request. Please download the request form, then send a filled-in form back to the HQ by e-mail.
Download the request form online:
https://www.sogetsu.or.jp/e/members/downloads/forms

<Notice for the Branches/ Study Groups>
Submission of Annual Activity Report of 2021 /Election Report
(1) Annual Activity Report for Sogetsu year 2021 (from April 2021 to March 2022)
(2) Members' list
(3) Election Report *only branch/study group which falls on election year.
* The official e-forms (PDF/Excel format) are available to download from Sogetsu website;

All the Branches and SGs are required to submit (1) and (2) to the Headquarters. The Branches and SGs which are due to have an election this year are also required to submit (3)
https://www.sogetsu.or.jp/e/members/downloads/forms

*We understand that many branches/study groups have not been able to hold activities due to lockdown and restriction. In such cases, please let us know the situation and how things have been going around you. It is the second year of the pandemic and the circumstances starts to differ in area and nations. Hearing from you is most relieving and reassuring for us in Japan.

Submission Deadline: May 31, 2022
Accepted by E-mail or by post

[Welcome] Branch/ Study Group event announcement/report on Sogetsu website
Have you ever visited the event page of Sogetsu official website? It's inspiring to share and see what is Sogetsu friends doing around the world.
https://www.sogetsu.or.jp/e/events/category/local/?event_type=end

Why not invite other overseas members to them by announcing the event on Sogetsu Website?
Download the announcement/report form online:
https://www.sogetsu.or.jp/e/members/downloads/reports

Leaflets (English/ Chinese)
The leaflets for 2022 are available. Each Branch/SG will be entitled to 200 complimentary copies sent by air mail (printed matter) on request.
Download the order form online:
https://www.sogetsu.or.jp/e/members/downloads/leaflets5

Thank you ! Season's Greetings received
Thank you so much to all the overseas members for the many seasonal greeting cards we have received. Your cards were displayed and much appreciated in the office of the HQ.

In Memoriam
Mrs. Masako Fukui December 18, 2020

草月文化活動支援基金へのご協力ありがとうございます

2021年11月～12月に当基金に寄せられた寄付金は、左記の通りです。（掲載は一万円以上、敬称略）
Shoko Koizumi-Hanson、大澤秀紅社中一同、Keiko Takahashi、福井県支部、ロンドン支部有志一同、石川倶子、白崎秀畔、田所萩和、伍篠尚玉、鈴木泉晶、Ikuyo Morrison、井上佐芳社中、川名グループ、長崎県支部、己青会、鳥取県支部、中島杏翠、出村丹雅草、Arita×Sogetsu東京展出品者一同

嬉しい受賞

刑部郊舟さん（栃木県下野市、師範会理事）は、30有余年の長きにわたり地域への奉仕活動に携わり、その専門性を惜しみなく発揮する活動をしたとして、下野市文化協会より功労賞を授与されました。
佐倉洋佳さん（大分県佐伯市、師範会理事）は、永年の文化活動に対し、佐伯文化振興会50周年記念にて50年賞を表彰されました。
久保丹啓さん（兵庫県芦屋市、師範会理事）は、永年にわたりひたむきな努力を続け、地域文化の向上に尽力したとして、「兵庫県ともしびの賞」を受賞しました。
中武弓さん（宮崎県宮崎市、師範会顧問）は、国民文化祭みやざき「川柳の祭典」において、最高賞の文部科学大臣賞を受賞しました（受賞作〈少しずつ忘れて朝食がうまい〉）。

訃報

福井和子（映夏）アメリカ合衆国／理事
二〇二〇年十二月十八日　享年九十六歳
青木育子（育玲）東京都／理事
二〇二〇年十二月三十一日　享年七十二歳
山口こま（晴汀）岩手県／理事
二〇二一年六月七日　享年八十八歳
岩原訓代　神奈川県／理事
二〇二一年十一月十日　享年八十六歳
田中美智子（光蓉）東京都／顧問
二〇二一年十一月十三日　享年七十六歳
大熊きよ子（霞鴎）東京都／理事
二〇二一年十一月二十五日　享年九十五歳
仲上靜子（智靜）宮城県／理事
二〇二一年十二月二十六日　享年九十二歳
熊野真砂子（水紅）東京都／理事
二〇二一年十二月十六日　享年八十九歳
加藤敏江（都志江）愛知県／理事
二〇二一年十二月三十日　享年九十歳

茜家元にグロリオーサのお祝い花を贈りましょう

家元継承20周年を記念して、茜家元の最も好きな花のひとつである「グロリオーサ」を使ったお祝い花をSNSにアップしましょう！
家元は、自身の作品に多く使用されているこの花について「ばらと同じくらいに、グロリオーサの名前を一般の人たちにも知ってほしい」と述べています。また皆さまにグロリオーサをご使用いただくことで、コロナ禍で消費が低迷している花卉業界を応援する思いも込めての企画となります。家元継承20周年のお祝いに、グロリオーサでSNSを満開に！この機会に多くの皆さんをお誘いいただき、ぜひご参加ください。

［ 参加方法 ］
作品写真とともに、家元へのお祝いコメント、以下のハッシュタグをつけて、SNS（インスタグラム、フェイスブック、ツイッター）へご投稿ください。
#家元おめでとう #グロリオーサ #グロリオサ #高知の花

［ お問合わせ ］ 総務課
TEL：03-3408-1154
E-mail：somu@sogetsu.com

＼ 家元継承20周年にちなんで ／
投稿期間は 2022年2月22日まで

アトリエスタッフ募集！

家元を支える、草月の未来を創る、
創流100周年に向けて新たな人材を募集します。
［ 募集要項 ］
業務内容：家元の制作アシスタント、国内外でのいけばな活動、ホテルやイベントでのいけこみ等
募集条件：草月流入門者（師範資格不問）、要普通自動車運転免許
雇用形態：正社員（試用期間3ヶ月）

［ ご応募・お問合わせ ］
ご興味のある方は、履歴書をお送りください。
草月文化事業株式会社 管理業務部
〒107-0052 東京都港区赤坂7-2-21
TEL：03-3408-9116
E-mail：y-sugawara@sogetsu.com

One Two Step 29

My life with Ikebana / Shosei Ishikura

Master Instructors of the HQ talk about their thoughts on ikebana and memorable episodes

I feel the great movement of the times, especially during these turbulent two years. While welcoming the new, I am also reminded of the important things that must be handed down to the next generation.
I came into Sogetsu when I was 15 years old. Now I know that Sogetsu ikebana has foster me, guide me, and made me the person I am today.
When I was young, *Iemoto* Sofu told me to "listen to what the flowers and plants are telling you". When I grew more as an *ikebanist*, *Iemoto* Hiroshi said, "Don't get caught up in the names of plants." Later, as matured and experienced, I came to understand that both *Iemoto*s meant the same thing; the essence is to "look deeply into the plants and discover them".
When I was studying with *Iemoto* Hiroshi, I took the plastic arts class which was literally an eye-opening experience. I was thrilled the stimulating lessons of contemporary artists. I also benefitted from the chance to make pottery at that time, and found the joy of arranging flowers in the ceramics I made at the Sogetsu Ceramics Kiln in Fukui and at the HQ.
My resolve is to go on being first and foremost a "Sogetsu ikebanist" throughout the changing times, while seeking a high sense of beauty through free expression.

本部講師が語るいけばなへの思い、心に残るエピソード

今、時代の大きな動きを感じます。新しい展開を受け止める一方で、守り繋げなくてはいけない大切なものがあると思います。15歳で草月に出会い、いけばなに育てられて今の自分があると感じているからです。
若い時代に、蒼風家元から「はなの言葉を聞きなさい」と。少し時代を経て、宏家元からは「はなの固有名詞にとらわれるな」と。
両先生の言葉から「植物と真剣に向き合い、自分の目で発見せよ」というメッセージを伝えてくださったと気付かされました。
宏家元時代の造形教室は、現代アート作家による刺激的な授業に毎回目から鱗が落ちる思いでした。またこの頃、作陶する機会にも恵まれ、福井の草月陶房や本部で創った陶作品に植物を造形（いけ）る喜びも知りました。
これからも時代の変化とともに常に高い美意識で、自由な表現を求める「草月人」でありたいと思います。

Shosei Ishikura

Entered the Sogetsu School in 1951. Taught directly from Sofu Teshigahara at his Mita Class. Became a Master Instructor of the HQ in 1990. She pursues the possibilities of plants to the limit which leads to the creation of highly figurative works. She has learned the essence of Sogetsu ikebana first-hand from the successive *Iemoto*s and now is eager to pass her experience to the next generation. Awards: Sogetsu Distinction Award, Hiroshi Teshigahara Award, Sogetsu Honor Award, and others. Photo books: "HANAO" (2001) which features "Ikebana in a place". "Play with clay" (2006), a photo book of the self-made ceramics and the pleasures of ceramic art.

石倉菘清

1951年草月流入門。初代家元蒼風の三田研究会で直々に蒼風から指導を受ける。1990年草月流本部講師就任。植物の可能性を見つめた造形性豊かな作品を数多くの展覧会で発表し、評判を呼ぶ。歴代家元から直接受け継いだ草月の真髄を次代の人達に伝える指導を行っている。草月模範賞、勅使河原宏賞、草月栄誉賞など受賞多数。著書に「場にいける」をテーマに据えた作品の写真集「花緒」（2001年）。陶の面白さを表現した作品集「土あそび」（2006年）がある。

Important Notice for Overseas Members
海外在住の皆さまへ重要なお知らせ

STA Membership Card and *So* Newsletter will move to a digital version

We are pleased to announce that we will transfer the *So* Newsletter and the Membership Card, which are currently delivered to you by postal mail, to the Sogetsu Teachers' Association (STA) Members' Site in August 2022 and April 2023, respectively.
Accordingly, the mailing of the Newsletter to overseas members will end with the June 2022 issue (No. 274), and the issuance of the paper Membership Card will also end in April 2022. After that point, you can view the Newsletter and the Membership Card on the STA Members' Site from your smartphone or any PC.
The Members' Site, which was launched in 2020, includes a digital version of each issue of the Newsletter and has been well received by members as they can get the information quickly. If you haven't seen it yet, please take this opportunity to access it.
As we continue to make efforts to improve our services even further, we would appreciate your continued support.

Sogetsu Foundation

April 2022
Issuance of the Membership Card. The paper version will end in 2022, and it will be transferred to the Members' Site in 2023.

June 2022
Publication of the *So* Newsletter June issue.
The paper version of the Newsletter will end with this issue.

August 2022
Start of the digital version of Sō Newsletter only on the Members' Site with the August issue.

STA会員証および機関誌『草/*So* Newsletter』はデジタル版へ移行します

この度、海外在住の皆さまへお届けしている機関誌『草 /*So* Newsletter』を 2022 年 8 月より、そして会員証を 2023 年 4 月よりウェブサイト「草月指導者連盟メンバーズサイト」へ移行させていただくことになりました。
つきましては、海外会員の皆さまへの機関誌の発送は 2022 年 6 月号（274 号）をもって終了、また紙での会員証の発行は 2022 年 4 月をもって終了とさせていただきます。代わりまして、スマートフォンや PC からメンバーズサイトにて機関誌と会員証をご覧いただけます。
2020 年に開設されたメンバーズサイトには、機関誌のデジタル版を掲載しており、いち早く情報を知ることができるとご好評をいただいております。まだご覧になっていない方も、この機会にぜひアクセスしていただきますようお願いいたします。
今後もより一層のサービス向上に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

一般財団法人草月会

2022年 4月
会員証発行。紙での発行は 2022 年度で終了し、2023 年度からはウェブサイトへ移行

2022年 6月
『草 / *So* Newsletter』6 月号発行
この号をもって冊子での発行は終了

2022年 8月
『草 / *So* Newsletter』8 月号より
ウェブサイトへ移行

お問合わせ［ 海外課 ］ E-mail：overseas@sogetsu.or.jp ／ FAX：03-3405-4947
［ Overseas Affairs Department, Sogetsu Foundation ］ E-mail: overseas@sogetsu.or.jp ／ FAX: +81-3-3405-4947

Special Interview: 50 Questions for Ken Teshigahara

Ken Teshigahara shared his thoughts about becoming the next *Iemoto* in the Spring 2021 issue of the quarterly magazine Sogetsu. This time, we asked him to answer 50 questions to help our members get to know him a little better.

1. When is your birthday?
I was born on July 1, 1994. I'm currently 27 years old.
2. What is your blood type and zodiac sign?
My blood type is A and my zodiac sign is Cancer.
3. Do you have any siblings?
I have an older brother. We are only a year apart, so we have been like twins ever since we were little.
4. What is your current job?
For the past four years I have been working for a consulting firm in New York. I specialize in mergers and acquisitions.
5. Why and how were you named Ken which is expressed with the Chinese character 萱?
The Chinese character means sawgrass and it is pronounced kaya in Japanese. This plant can be used as roofing material. Because it traps air, it keeps the house cool in summer and warm in winter. My grandfather (*Iemoto* Hiroshi) gave me this name in hopes that I would have such flexibility.
6. What is your normal daily schedule?
I wake up around 6:30. Since my neck surgery in 2020, I have been doing about an hour and a half of rehab every day. I work remotely at home most of the time until 9 or 10 p.m. pretty much nonstop.
7. Do you wake up well?
Yes, generally. When I'm under a lot of stress maybe not so much, or I may wake up earlier.
8. What's the first thing you do in the morning?
I check my email. If there is an urgent requirement, I reply immediately. If not, the first thing is to prepare coffee and do my rehab exercises.
9. Have you had any dreams recently?
I came back to Japan for the New Year's holidays. I was probably very tired because I had a series of nightmares and the situations were so real [laughter].
10. What's your earliest memory?
Fighting with my brother when I was about three or four years old.
11. Where is your favorite spot in NYC?
I live on the West Side of Manhattan. I sometimes take a walk along the Hudson River with my friends on mornings when I'm off from work. I love the atmosphere.
12. What food do you recommend in New York?
Everything is pretty good. I sometimes go to steakhouses that serve massive beef cuts that you would never find in Japan.
13. Where is your favorite spot in Tokyo?
That would be my home. I can relax. But now, when I go back to New York, I feel like I'm back home there too. I probably would get yelled at from a genuine New Yorker for saying this [laughter].
14. Is there anything you always eat when you come back to Japan?
Yakiniku. Yakiniku in New York costs more than twice as much as it does in Japan, and it's not as good.
15. What are your strengths?
Being sure to prepare and make an effort. I have always been like this since I was a child.
16. What are your shortcomings?
I guess I'm a person who makes a clear distinction between work and private. For example, on weekdays when I'm busy with work, I can't think of meeting anyone. It may not be a bad thing, but it's sometimes mentally hard.
17. Are you positive or negative?
Both. My base is negative, but I'm always thinking about how to make it positive. The same goes for the preparation and effort I mentioned about my strengths. I tend to worry, so I make sure to be fully prepared.
18. Are you an indoor person or an outdoor person?
This would also be both. I used to be an outdoor-only person, but recently I've come to think that being an indoor person is also important. For example, if I go out on Sunday, I make sure to relax and stay at home in the evening. Otherwise, I can't reset myself.

Ken Teshigahara

Born in 1994 as the second son of *Iemoto* Akane. Ken attended Nishimachi International School and the American School in Japan before he went on to study economics at Trinity College in the U.S. He currently works for one of the leading consulting companies in New York.

19. Have you ever kept an animal?
I had a Shih Tzu dog when I lived with my family. When I was in college, the nine of us who shared a room had a German Shepherd. I had a hard time as the dog bit my clothes and wallet, though.
20. What is your favorite color?
Blue or white. My clothes are all in those types of colors.
21. What is your favorite flower material?
That's a hard one. I think bamboo is manly and cool.
22. What is your favorite music?
It changes from time to time, but I have always listened to rock music from the 1960s and 1990s.
23. Do you have any specific treasure?
I treasure all the gifts I receive, including underwear and socks. I cherish things that contain the thoughts and feelings of the people who gave them to me.
24. Who are the people who have influenced you or whom you admire?
My mother, and close friends. Seeing people work hard is the best motivation for me.
25. What advice still sticks with you?
My grandmother, who lived with us, instilled in me the Japanese way of caring, manners, and the basics of how a person should be. I'm Japanese, and I was born into an ikebana family, so I'm happy about that.
26. What is the most memorable book, TV show, or video game you have ever seen?
I read a lot of biographies. It is interesting to learn about the inner life of people, both famous and ordinary. Recently, I read with great interest the biography of David Goggins (former US soldier and ultra-marathon runner).
27. If you had to pick one hobby, what would it be?
Recently it's cooking. If I had the chance, I would love to cook in a professional fully-equipped kitchen.
28. Do you have any specific hobbies you want to pursue?
Anything creative like painting, photography, and guitar. But they are all things to do alone. I like to do things with other people, so I might not end up doing it [laughter].
29. What is your favorite view?
My friend's house is located in the mountains, about a two-hour drive from Manhattan. The natural beauty of the area calms me down when I drink coffee there.
30. Where do you want to go now?
I was born and raised in Japan, and I used to ski, but I've never actually been to Hokkaido. I've heard that the snow in Hokkaido is great, so I want to ski there.
31. What are you doing when you feel happy?
When I'm spending time with my family and friends.
32. Do you have any personal interests?
Golf. No matter how much you practice, you'll never get your game to where you want it to be. Even if you improve one thing, another issue will come up. That's why we can keep playing golf no matter how old we get.
33. Have you ever felt like you were in a slump?
Work is a repetition of slumps. Just like golf, I believe that I can improve through overcoming these slumps.
34. How do you relieve stress?
I don't particularly consider it a way to relieve stress, but when I do cardio and take a shower my mind gets reset. Good ideas tend to pop up under these conditions.
35. What's the best reward for you?
Meals. On weekdays, I try to eat healthy, but on weekends I give myself a break.
36. What do you pay attention to stay healthy?
Diet and exercise. Especially about the food I eat – the more I learn about it, the more I realize how important nutrition is, so now I'm conscious about eating a balanced diet.
37. What is the most common topic of conversation with your friends?
Sometimes we talk about work, but most of the time it's just random stuff [laughter]. I guess that's why I can maintain the same relationship with my old friends.
38. When making a major decision, what criteria do you often use?
I try to listen to the opinions of those around me. I used to feel embarrassed about revealing my concerns, but now I can share them freely with people I trust, and I feel much better that way.
39. What type of people do you like?
This is connected to the teachings of my grandmother. I like caring people. I like people who care about those around them first before they care about themselves.
40. What has made you happy lately?
The fact that I was able to return to Japan in this way.
41. What have you been angry about lately?
I was mad my suitcase didn't come out smoothly at the airport [laughter]. I'm not the type to lose my temper, but I do try to say what I need to say.
42. What's been frustrating you lately?
Before returning home, I played tennis with an advanced player. I was so exhausted that I couldn't even breathe soon after I started to play. That was a little frustrating, or rather embarrassing for me.
43. What is your best memory from this year?
Recently, I went for a drive with friends after everything was set for me to go back to Japan. It was just the right time for a beautiful sunset and the music played nicely. That impression still lingers on with me.
44. What do you want to accomplish next year?
My neck still hurts all the time now, so I hope it improves and things get back to normal.
45. What do you want most right now?
Nothing. Just a new neck!
46. What are you most interested in right now?
While I was back in Japan this time, I went to the Sogetsu Atelier to make a Kadomatsu. It was the first time I saw the process of splitting bamboo into 16 pieces. I've seen bamboo works many times before, but it was very interesting to learn how much time and effort goes into them.
47. Which of *Iemoto* Akane's works left the biggest impression on you?
A few years ago, I saw my mother's demonstration at Columbia University Hospital. I thought that once she completed the work, she would turn it around to face the audience. However, I noticed that she arranged it (from behind) facing the audience throughout the performance. When I told my mother about it later, she said, "all Sogetsu people can do that." I was quite impressed.
48. What do you feel is similar between *Iemoto* Akane and yourself?
We both can see people's emotions and respond accordingly. Even if they don't show their emotions, we can tell. After my mother and I talk with someone, we often share our impressions by saying, "she was so angry, wasn't she?"
49. You talked about your determination as the next *Iemoto* in the *Iemoto* Interview from the Spring 2021 issue of the quarterly magazine Sogetsu. What have you done since then to prepare for the succession?
I've started participating in Sogetsu's meetings remotely. I'm getting a better grasp of the workflow, but I feel I need to learn more. In the future, I would like to increase the weight of my time given to Sogetsu while maintaining a balance with my current work in consulting.
50. Please give a message to *Iemoto* Akane on the 20th anniversary of her succession.
It has been twenty years since Grandfather passed away and you all of a sudden took on the burden of everything. As a son and as a person, I'm very proud of you and grateful for what you have accomplished. Seeing such attitude from my mother, I was able to make up my mind to become the *Iemoto* of Sogetsu. You are my greatest motivation!

Photo / Yoshitomo Tanaka

Exhibition Report

The 102nd Sogetsu Annual Exhibition to Celebrate *Iemoto*'s 20th Anniversary "Flowers and Me"

(Top left) The Iemoto*'s work which was displayed at the front entrance of the Sogetsu Kaikan. (Top right) The "Color Area" at the top of the Sogetsu Plaza. The theme color for the sixth through eighth periods was blue. We supported the "MAKE IT BLUE" campaign to show our gratitude to health care professionals working in the face of the COVID-19 pandemic. (bottom left) The "Special Area to Celebrate the* Iemoto*'s 20th Anniversary" with ikebana works arranged in ceramic vases made by* Iemoto *Akane. (bottom right) The "Photo Ikebana" section.*

For the first time in these two years following cancellation due to the COVID-19 pandemic, the Sogetsu Annual Exhibition was held at the Sogetsu Kaikan. While taking thorough measures to prevent the spread of the infection, the exhibition was held with a small group over two days in each period, in a total of nine periods.

Prior to the opening of this exhibition, *Iemoto* Akane's large work was displayed at the front entrance of the Sogetsu Kaikan. The beautiful light curls of the split bamboo attracted the attention of passers-by on Aoyama-dori, and posted on their social media pages.

This exhibition consisted of five areas. In the Sogetsu Plaza, there was the "Color Area" with the specific theme colors in addition to the "Free Style Arranging Area." The Lounge on the 2nd floor was the "Special Area to Celebrate the *Iemoto*'s 20th Anniversary," in which the exhibitors used ceramic vases that had been made by the *Iemoto*. Also, there was the "Challenge Area" with a small exhibition space and the "Photo Ikebana" section where even members in far-flung areas could exhibit their works. For the event, the *Iemoto* sent the following message. "Now is a time that we are in danger of losing connections between people. So I want all of you to comprehend the story of each of the exhibitors as told through flowers."

The total number of ikebana works on display was 430. Each one of them expressed the person who created it and their joy at arranging flowers.

Photo ／ Katsuhiro Ichikawa (Top left, Top right)

Message from Kiri Teshigahara

From a young age I had always thought that India was both a wondrous and sacred place. From what I had seen from photographs or on television documentary programs, I had painted this picture in my head of a country that contained every single color that existed from a color wheel. I had never dreamed that I would actually visit this magical place with my father, but sure enough, in 1983, my father, Hiroshi Teshigahara (the third *Iemoto*) and I had a roundtrip ticket booked. We were sent by the Japan Foundation (Kokusai Kōryū Kikin) who had appointed us to disseminate the art of Ikebana to India as per their mission to spread Japanese traditional culture to India.

The colors in India were beautiful. There were so many colors - vivid yellow, pink, gold, red and orange. The women wore beautiful hand-sewn stitched saris. To me, Indian women were beautiful with gorgeous saris and thick black hair. This tradition was unlike anything I had seen before. We also had the privilege of visiting an Indian wedding. The bride was covered with hennaed hands and feet, and overwhelmingly beautiful golden jewelry. It was a vibrant, intricately planned ceremony, full of celebration and tradition. We were all moved by the beauty we saw before us. We were told that anyone could be invited to an Indian wedding, and we were so happy that members from the wedding invited us to attend. We moved around in cars, some of which had no air conditioning. It was torture when we had to drive through a long gravel road for long hours, and a strong dust came into the car through the open windows. Of course, my father who was a clean freak, covered his nose and mouth with a handkerchief, while wearing black sunglasses like a pair of goggles. I could tell that he was in a horrible mood while remaining silent throughout the entire car ride.

Cows would cross in front of us, and of course we had to wait until they crossed the road. They took their time, and sometimes there were 10 cows at a time. My guess was that it was a family of cows crossing the road. We waited since cows are considered to be holy animals of India. Again, my father, who was impatient and hated to be late for any appointment, was in a horrible mood.

However, we had made it safely to New Delhi, and first on our itinerary was to meet the 3rd prime minister, Indira Gandhi. When she had invited us to her office, we saw a remarkable Ikebana there and my father immediately asked, "Who arranged that Ikebana?" She responded, "Me," with a beautiful smile. He then replied, "That is a beautiful arrangement!" We were both so moved by her thoughtfulness to arrange Ikebana for us for our first visit to India. We immediately felt a connection with her, as her elegance and strength was so infectious. What a privilege it was for us to meet her. During my father's demonstration a few days later, she sat right in front of him with a look of fascination on her face. When she was leaving, we saw her off to her vehicle. She had her windows rolled down all the way and gracefully waved at us with a big smile. Both my father and I thought what a beautiful elegant charming lady she is!

My father and I were also invited to an Indian Sogetsu member's home so that we may hear her daughter play sitar. The sound that came out of her sitar was breathtaking. My father also loved Indian art, and he loved Satyajit Ray's films and Ravi Shankar's music. Such amazing, talented artists from India promoted the strength and beauty of Indian art with the whole world.

During our visit, we also went to see the sunrise on the Ganges river. The Ganges has a strong presence within the Hindu religion and is also a bridge between sin and virtue. Hindu people believe that the river to be sacred and holy. It is because of this holiness that many make the pilgrimage to the city of Varanasi to wash away their sins in the water. We got into a boat when it was still dark, and went to a spot where many people were gathered doing their own activities; people were bathing, washing their clothes and diving underwater to bathe in holy water. We also saw dead animals and other bodies float nearby. People were collecting water from the river to bring back home to use for prayers. The site of Varanasi was unlike anything I had seen before. As we were amidst this panorama, we realized that both Life and Death could equally exist on the river Ganges. We spent several hours at this unreal place. None of us made a sound or said a word. No matter how polluted the Ganges river had become, people submerged themselves into the water in order to purify themselves, which in certain ways represents the life and death of India.

The sunsets that we saw in India were some of the most beautiful purple colors.

Towards the end of our trip was a visit to the Taj Mahal, which had such incredible architecture. My father was overwhelmed by its beauty, size and its ivory white marble construction. We were asked to wear plastic booties on our shoes so that we didn't damage anything. After we came out of the building, two old musicians dressed in white attire appeared with their instruments. The instruments they pulled out of their bags looked like guitars, but only had one string attached (somebody later told us that these were ektars). They sat down and started to sing and play. The song they sang was so beautiful and unforgettable. We will never lose that memory.

My father had later commented to me: "Designers like Issey Miyake must have been influenced by Indian men's clothing." I completely agree with him. Our trip to India was truly an indelible experience that both my father cherished, and I will cherish forever: a vast place filled with mysterious beauty and yet such hardship. The trip truly taught us how important it is to honor life. My father had said to me that he was both physically and mentally affected by his travels, but he also said that with these new experiences, he carved out new creative paths for himself. My only regret was that my father and I didn't have a chance to return to India, but I felt so lucky to share that time with him there.

Keep Right on Talking! No.80 : Akane Teshigahara

Surrounded by a different kind of space

More than a month has already gone by in 2022. I can only hope that this year will be peaceful and fruitful. Last year, although we were subject to various restrictions on our activities, we did our best to make progress as much as we could.

One of the most moving events was “RELEASE” Akane Teshigahara Solo Exhibition for 20th Anniversary which was held in November at the Sogetsu Kaikan Annex Atelier. The toughest part to decide for that solo exhibition was the number of works to display. After much deliberation, I designed the layout while keeping the number of works to a minimum level, but I did wonder if I should increase them, to the point of literally having nightmares about it. However, I changed my mind midway through the preparation, thinking that I should do whatever I wanted to in my solo exhibition: as was the Sogetsu principle of my *Iemoto* predecessors, so I just concentrated on my production.

As some of the works were quite large, I had more difficulties than usual, but the Sogetsu Atelier staff members were a great support for me under such circumstances. As I watched them working with all their might, I thought to myself, “they can’t work any harder than they already are...” Whenever I felt daunted or a bit hesitant, they said to me as if they could read my mind, “Don’t think it’s impossible! Let’s give it a try first!” I was encouraged by them. Thanks to that, I was able to complete powerful works without any compromise. Even so, until the very end, I was still worried about whether I would really be able to offer visitors something enjoyable, but the moment I saw everyone come on the first day, I was convinced of my success. All of their faces looked as if they had entered the wonderland I had been aiming to create. The atmosphere, reminiscent of a different dimension, could only be realized in this Atelier space. I wanted everyone to experience the special thrill that no other exhibition venue could offer.

The giant spherical installation at the center of the venue incorporated a work by my grandfather, Sofu, which had been lying in a warehouse. I was determined to use it when I found it, but its presence is still exceptional. It became the heart of the work, and I could even hear Sofu breathing within it. The

With the main work at the Akane Teshigahara Solo Exhibition "RELEASE". The area in red is part of Sofu's work.The power from my grandfather was also a big boost. My heartfelt gratitude goes to everyone who visited the exhibition.

period of this solo exhibition overlapped with that of the 102nd Sogetsu Annual Exhibition. The timing was precious because the spread of the COVID-19 had just settled down and the Omicron variant had not yet appeared. In addition, we were blessed with sunny weather every day during the exhibition, and I couldn’t help but think that it was a blessing from Sofu who was particularly attached to this place, to add to the mood of the Atelier.

Every event has a certain sadness when it comes to an end, but it might be the first time that I had such a strong feeling of not wanting to leave. In fact, I tried to extend the exhibition period, but as might have been expected, it was difficult to do so suddenly, so instead, we extended the opening hours to allow visitors to see the exhibition in the evening. At a normal exhibition site, there is not much difference between day and night, but in the Atelier, because of the large influence of outside light, the atmosphere changes more than you might imagine at night. I heard that some people visited the exhibition twice, once in the daytime and once at night, as my works shone beautifully as if they were floating in the dark night.

In the two large works of this exhibition, I did not use vases as the main feature. By not doing so, the plants looked as if they were emerging directly from the ground, and I received numerous comments from

the visitors that they felt the life force of the flowers and were energized more than usual. Although it was nominally a solo exhibition in commemoration of the 20th anniversary of my succession as *Iemoto*, it would be my great pleasure if I could lift some of the sinking feeling caused by the pandemic. The future is still uncertain, but I hope to have more opportunities like this exhibition this year.

Exhibition Report

“RELEASE” Akane Teshigahara Solo Exhibition for 20th Anniversary

The main works in the Atelier. The spherical work was placed in the center of the room, and the two corresponding large works were dynamically arranged using the original shelves. Brightly colored materials, such as fire thorn and idesia, were used for one, and subdued colored materials, such as princess tree and Japanese apricot with moss, were positioned in the other.

The Akane Teshigahara Solo Exhibition “RELEASE” was held in commemoration of the 20th anniversary of her succession as *Iemoto*. The venue she chose was the Sogetsu Kaikan Annex Atelier. This has been the place of creation for successive generations of *Iemoto* and the heart of the Sogetsu School and is scheduled to be demolished within a few years due to the redevelopment of the surrounding area.

Her works were displayed not only in the Atelier building but also all over the site, including the exterior stairs, the adjacent ironworks, and even the dustbins. The work fused with such quirky places greatly entertained the visitors.

The main piece was a spherical work made of steel, driftwood, and Juniperus chinensis. A part of a Sofu’s work was also incorporated, which caused a buzz. About this work, “The histories of Sogetsu and myself and the condensed energy of plants are released,” said *Iemoto* Akane. “I expressed the moment when another entity was made.” This exhibition, which showed the new possibilities of ikebana, soothed and cheered peoples’ hearts.

Photo ／ Naoki Fujioka